

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2693100022		
法人名	(株)キャピック		
事業所名	すいーとハンズ向日 (3階)		
所在地	京都府向日市上植野町下川原46-3		
自己評価作成日	2023年2月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 野の花		
所在地	京都市左京区南禅寺下河原町1番地		
訪問調査日	令和5年3月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

3年前からコロナウイルスにより外出、面会が制限され又、家族の来所や外部ボランティア等も施設に入れない状況が続き、外部との関わりを持つことが出来なくなりました。ご入居者様には少しでも楽しい時間を過ごしていただける様又、活気のある生活を送って頂ける様にレクリエーションの強化で、午前午後のレクリエーションを行っております。体を動かすレク、頭を使うレクを組み合わせ日々行っています。月間では季節レク、月に1回の食事レク(手作り)、おやつレク(手作り)を行いご入居者様にも出来ることをお手伝いいただき、楽しんで頂いております。年に2回は握り寿司を発注したり年に1回は焼肉パーティーを行ったりと、バリエーション豊かに取り組んでおります。敷地内に畑があるのでホウレン草やゴーヤ、ニンジン育てたり、花を楽しんで頂ける様にハナミズキを植えたり、寄せ植えなどをして楽しんで頂いております。敷地内でも外気浴をして頂ける様にと、ベンチを増やし季節の良い時には庭でお茶を楽しんで頂いております。少しでも笑顔が増える様、レクリエーションに力を入れてまいります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

2階と同じ。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2693100022		
法人名	(株)キャピック		
事業所名	すいーとハンズ向日 (2階)		
所在地	京都府向日市上植野町下川原46-3		
自己評価作成日	2023年2月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 野の花		
所在地	京都市左京区南禅寺下河原町1番地		
訪問調査日	令和5年3月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

3年前からコロナウイルスにより外出、面会が制限され又、家族の乗所や外部ボランティア等も施設に入れない状況が続き、外部との関わりを持つことが出来なくなりました。ご入居者様には少しでも楽しい時間を過ごしていただける様又、活気のある生活を送って頂ける様にレクリエーションの強化で、午前午後のレクリエーションを行っております。体を動かすレク、頭を使うレクを組み合わせ日々行っています。月間では季節レク、月に1回の食事レク(手作り)、おやつレク(手作り)を行いご入居者様に出来ることをお手伝いいただき、楽しんで頂いております。年に2回は握り寿司を発注したり年に1回は焼肉パーティーを行ったりと、バリエーション豊かに取り組んでおります。敷地内に畑があるのでホウレン草やゴーヤ、ニンジン育てたり、花を楽しんで頂ける様にハナミズキを植えたり、寄せ植えなどをして楽しんで頂いております。敷地内でも外気浴をして頂ける様にと、ベンチを増やし季節の良い時には庭でお茶を楽しんで頂いております。少しでも笑顔が増える様、レクリエーションに力を入れてまいります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

京都市中部に位置する向日市にある2ユニットのグループホーム、開設15年になる。ホームは西国街道に沿っており、小畑川があり、ホームの横には大きな竹藪がある等、風光明媚な立地である。あたりには小さな地藏堂や築百年を超える旧家の家と大きな庭がある。街道は車が少なく静かなじり道であり、散歩には適した所である。ホームには現在のコロナ禍で閉じこもり生活を余儀なくされている利用者との暮らしを楽しみ、利用者の喜ぶ顔をなによりの励みとしてきて長年勤務している女性職員が多い。利用者はホームの立地と職員の利用者への思いに支えられて自分なりの暮らしを楽しんでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	向日市で長く生活してこられた方が多く、その地域で、見慣れた景色の中で過ごしていただけ、その方が慣れた地域で散歩をしたり、ドライブに出かけ近隣の景色を楽しんで頂いています。	グループホームの理念は「新しい知識を取り入れ優しさをもって接します。」であり、昨年管理者が作成している。職員に説明している。理念の実践として、職員の言葉遣いと介護の方法について常に注意している。介護の方法が古い方法を用いている職員がいるので常に注意している、	理念は作成するだけではなく、どのように実践していくかが重要である。また、利用者、家族、地域の人、運営推進委員等に広報し、理解と協力を求めることが大切である。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で地域との関わりが難しいですが、畑や家の前で野菜を販売しているところに散歩に出かけ店番をしている地域の方との関わりを持ったり、近隣の方とすれ違い時には積極的にあいさつし笑顔を交わす。	利用者はふだん近くの小畑川の土手に上がってあたりの景色を楽しんだり、西国街道にある地藏堂や大きな旧家の立派な屋敷や木々の多い庭を眺めて季節の花が咲くのを楽しんでいる。自治会に加入しており、コロナ前は地域の夏祭りや近くの小学校の運動会を見に行っている。地域貢献としては近くの畑の野菜を買っていることである。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域(近隣)の方へ介護相談をしていることを発信しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍の為施設内だけの会議となるが、役所、包括、ご家族様などに郵送し、意見を求めたり、レク等の写真を送付しご指導頂き、今後の支援やレクに活かしていきます。	運営推進委員は決めていない。ホーム内だけの会議をしている。地域や家族の意見を聞いていない。	運営推進会議は地域密着型サービスである、グループホームが地域の高齢者の暮らしや介護についての中心的存在として、地域の人に運営のあり方を検討してもらい、自己満足にならないように、推進して行くための会議である。会議をしないことは法令違反となる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	現状、運営推進会議が出来るていないため、分からない事や、今後の取り組みについては都度、問い合わせや相談を行っています。	向日市には必要な報告をしている。会議には参加していない。	向日市とは常に報告や相談をすると共に必要なことを教えてもらい、グループホームの質を高めることが求められる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的な内部研修を行ったり、外部研修(ズーム)研修がある場合には積極的に研修を受けています。スピーチロックの研修を重ね何がスピーチロックになるのかの意識を高めています。	身体拘束をテーマに職員研修を年に3回実施しており、職員は「スピーチロック」、「やむを得ず拘束する場合の3要件」を認識している。身体拘束適正化委員会の7人が毎月現場を点検している。1人の利用者のベッドを4点柵としており、家族の同意をとっている。他に身体拘束の事例はない。ホームの玄関ドアは日中施錠していない。非常口と職員出入口を施錠している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	何が虐待であるかをしっかり把握し、身体拘束適正化委員会を中心に研修を行い施設全体で虐待防止に取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用されているご利用者様の話を題材にしてまずは知るところから始め、自立支援について必要性を関係者と話し合う。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は管理者、ケアマネが同席し、契約書・重要事項説明書・運営規定・看取り等のお話をし、疑問点にお応えし、ご理解いただける様対応しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	現状、運営推進会議が出ていないが、ケアプランの説明等郵送物がある時には文書を入れ、何か要望等ある時にはいつでもご連絡いただける様お願いし、今後はラインを繋げ時間を問わず、ご連絡頂ける様にしていきます。	家族の面会は現在リモート面会か、玄関での面会にしている。多い人は月に2回来る人もあるが全く来ない人もある。家族会や行事への招待は中止している。家族には①運営推進会議の議事録を隔月に、②往診があった場合はその結果を、③行事の写真を多数掲載した広報誌等を送付している。家族からは「いろんなイベントを考えてもらってありがたい」「楽しそうにしているので安心です」「ホームでの様子がよくわかる」等の意見をもらっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は2,3か月に1回は面談を行い、要望や困っていること等を聞き職員が働きやすい職場にしている。職員と帰宅時に顔を合わせた時には、必ず声を掛け、話しやすい様な雰囲気作りをする事を心掛けている。	ユニット会議を毎月開催し、利用者カンファレンス、行事、業務の検討をしている。職員は積極的に意見を言っており、就業環境を改善している。職員は半年ごとに自己評価し、目標をたて、管理者と面談している。内部研修は毎月計画的に実施している。外部研修には援助がある。職員は利用者を担当し、6つの委員会のどれかに所属する等、役割分担をしている。職員は法人への意見を言うことができるので、働きやすい環境だと考えている。	
12		○就業環境の整備	就業規則・資格支援規定・人事考課制度が		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	リーダーを始め職員にも研修を提案し個々の職員に合った研修を提案し受けている。ズーム研修が増えたので受けやすくなってきている。関りの業者からの研修を定期でお願いしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現状コロナ禍の為活動できていない。しかし電話での問い合わせなどは行っている。ブログ等も見て頂いています。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日々の支援の中で利用者が何に不安を感じているのかを探り、そこから理解し、安心してもらえるよう対応をしている。笑顔での挨拶・傾聴を大切に、信頼して頂ける環境作りをし、職員同士情報共有を行っていません		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	問い合わせの時点から困りごとを伺い相談等に関しては何度も話し合いをし信頼関係を構築して行く。ケアプラン作成後もプランを題にして再度相談ごとを聞く。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の意向と家族の意見を等をすり合わせ、その時必要とされている事を見極め、施設全体での連携し対応、支援を考えていく。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者様の出来ることは出来るだけ行ってもらい見守りをしながら、出来ない所は支援をしながら、コミュニケーションをとっています。安心した生活が遅れる様寄り添い、支援していく。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来られた時、ご連絡を頂いた時には必ずご本人様のご様子や体調面などご報告し、ご本人様とのより良い関係を築いています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会等でご近所の方、お友達にも来ていただける様ご家族に依頼している。散歩の途中で近隣の知り合いに会うと少し立ち話をして頂く。	利用者は昔からの友人に電話を掛けたり、手紙を出したりしている。「住んでいた家を見に行きたい」と利用者が希望すれば、ドライブで同行している。利用者の思い出はできるだけ話を聞いて、またこちらからも話の中に入ることにより、利用者が思い出せるようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	楽しく過ごせる様、共通の話題を作り、関わりを繋いでいき、皆が楽しめるレクリエーションを考え行って行く。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	こちらからは、連絡を取ることは出来ていません。退所時には、必ず何かご相談ある時にはいつでもご連絡頂きます様お声掛けをしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で本人の思いや意向を確認し、本人にとって必要な支援を行う。ケアプランに沿うことは必要だが、意向が大きく変わってきていると思った時には、変更も視野に入れ必要な支援を行う。	契約時には管理者と計画作成担当者が利用者や家族と面談し、利用者の医療、介護の情報を収集し、同時に利用者と家族の意向を聴取している。利用者の生活歴も情報を記録している。向日市、東京から仙台から京都へ、福井県高浜町等の出身地、農家、父戦死等生家のこと、現役の時は畑仕事、島津製作所勤務、京都府間人町。同僚Jの人と結婚、自営業の夫と結婚、子ども1男2女等結婚生活等々記録している。趣味は絵を描くこと、畑仕事等である。	
24		○これまでの暮らしの把握	アセスメントやサマリーなどからこれまでの		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活状況を把握し、傾聴を行い、情報共有をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	健康管理は毎日のバイタル測定で行い、ケア記録、申し送りノートにて情報共有を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各ユニットでユニット会議を行い意見交換をし、介護計画書や、モニタリングを行っています。	利用者が入居後、管理者や計画作成担当者等がアセスメントし、介護計画を作成している。介護計画は利用者、家族、職員、医師等の意見が反映されている。介護計画の実施記録は職員が書いている。モニタリングは担当職員が3か月ごとに実施しているが、介護計画の評価ではない。	認知症利用者の介護計画は、身体介護、認知症不穏時の対応、利用者固有の生活の楽しみの項目が必要である。また介護計画の実施記録は職員が実施したことと共にその時の利用者の反応、発言、表情等を書くことが必要である。モニタリングは介護計画の評価を毎月実施すること。以上の3点が求められる。
		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア記録に日々の様子、プランの実施を記録し、申し送りノートにも記入し、情報共有をしながら介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出が叶わない中、自動販売機で飲み物を買ったり、散歩の途中で野菜を買ったりして頂いています。個別レクも楽しんで頂いています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を使えないので職員の趣味を生かしハンドベルやピアノを楽しんで頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	体調不良の時には連絡し往診をお願いしたり、医師の指示を仰ぐ。訪看が週に1回来ているので築いたことなど相談が出来る。	入居前からの利用者のかかりつけの医師や病院への受診は家族が同行、職員も同行している。利用者の状況は文書にまとめたり、口頭で職員が医師に伝えている。歯科は訪問歯科医を利用している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回訪問看護が来ているので健康管理が出来ていたり体調不良の時には連絡し指示を仰ぐ。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはサマリー作り情報共有を行い、日々の状況を知らせる。入院中も小まめに連絡を取り退院時に適切なケアができる様家族とも連携をとる。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期で看取り期には何度も何度も家族と話し合い意向を聞きながら対応しています。利用開始時には重度化・施設での看取りの説明は行っています。	利用者の重度化や終末期に関するグループホームとしての方針を文書にしていない。方針は、「希望すれば「看取り」に対応する」、である。契約時に利用者と家族に説明し意向を聴取している。家族は「わからない」が多い。職員にターミナルケアの研修をしている。事例を経験している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、事故発生時の対応の研修は行っているが不安が付きまとう。必ずかかりつけ医又は訪看に連絡し、相談しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練を実施しています。非難は全員3階に非難し救助を待つ事と周知しています。	火災、地震、風水害、夜間帯についての避難訓練をしている。水や食料の備蓄を準備している。災害時における法人内相互協力体制は完備している。災害時に地域の人に協力を依頼していない。	災害時には地域の人との協力をお願いしておくことが求められる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	丁寧な心のもった挨拶の徹底を心掛け、相手を思いやる気持ちを持ち、スピーチロックを意識した声掛けの徹底を行っています。直らない職員には都度面談を行っています。	利用者への対応や言葉遣いについてのホームの方針は、「利用者はおお客様であり、人生の先輩であることを踏まえて、相手の目を見て受け答えをするように」と指導している。職員には「どこ行くの」、「座っついて」というような言葉を禁止している。こうした方針はユニット会議で検証している。 利用者の自己選択を大切にしており、着る衣服は利用者が決めている。髪型は訪問美容を利用しており、利用者が自分の好みを注文している。 飲み物を選んで貰うために、コーヒー、紅茶、ココア、フルーツジュース、スポーツドリンク、ゆず茶、抹茶、ミルク等を準備している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の支援の中で、思いや希望を聞き出し、自己決定をして頂き、それに沿っていける支援を行う。着替え時の衣類の選択、選べるおやつの日を決め選んで頂くなど行っています。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個別支援を盛り込みながら計画を立て、出来るだけ希望に添える様しえんしているが、その日のご利用者様のご状態により、個別支援が出来ないこともあります。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理美容をご利用頂き、ご家族支援で美容院に行かれたり、お好みの洋服を選んで頂き、おしゃれを楽しんで頂いています。ご希望の方にはネイルをして頂いたり気分転換をして頂いています。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援	月に1回の食事レク、月に1回のおやつレク			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	を行いご利用者様に手伝って頂きながら準備を行う。日々は、テーブル拭きから始まりお箸配り、後片づけの食器拭きをして頂いている。	利用者の食事はタイヘイから購入し盛り付けている。季節感のある献立である。時には利用者の希望を聞き、職員が手作りすることもある。タケノコの季節には筍ご飯を作っている。職員が手作りの時には利用者も野菜の皮を剥いたり、切ったりなどできることをしている。みんなで鍋を囲んだり、焼きそばをつくることもある。すしの出前をとることもある。外食は中止している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量のチェックを行い、健康管理を行っている。ご利用者様毎に大きさを考えカットをしている。食事量や水分摂取に変化が出た場合には主治医に相談している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事後ごとに口腔ケアを行っています。訪問歯科もあり、何かあった時には家族に相談後訪問歯科を依頼している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックをしておりそれぞれのご利用者様に合わせ声かけを行っている。夜間帯は良眠を優先していますが、定期でのパット交換が必要な方は定時で行う。	少数の利用者は尿意があり、トイレの場所を知っていて自身で処理できるという、排泄の自立をしている。他の利用者は職員の声掛けによりトイレを利用している。牛乳、ヨーグルト等、自然排便の支援をしているが、ほとんどの利用者は下剤を服用している。入居後排泄の改善をした利用者はいない。	
44		○便秘の予防と対応	便秘予防で、水分を多めに摂取して頂いたり、腹部マッサージを行っている。フロア内の歩行や体操などで腸の動きを促している。便秘時は訪問看護に浣腸して貰ったり、主治医に相談している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	最低週2回の入浴を行う。立位が不安定なご利用者様には機械浴(座浴)を利用し安心して入浴頂く。暑い時期はシャワー浴を増やしたり、個人のご希望を伺い支援している。	利用者の入浴は毎週2回を支援している。湯に漬かっている時間や介助の職員、入りたい日、湯の温度等は利用者の希望に添っている。入浴拒否の利用者にはいろいろ工夫して入れるようになっている。季節にはゆず湯を楽しんでいる。風呂上がりの化粧水を持っている利用者がいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	フロア内にいくつかソファを準備し、ゆっくりして頂けるスペースを準備しています。夜間はパジャマに着替えて頂き安眠していただける様その方に合わせた支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の効果、用量、副作用等を知る努力を行い、受診後には薬が変わることが有るので薬情を全員が確認、理解する。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	気分転換に天候の良い日には近隣での散歩やドライブに行き変化のある時間を過ごして頂いている。午前は体操、午後はレクリエーションを行い楽しんで頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	最近ではコロナ禍の為、外出できなかったが 外食レクは、今後続けていく。天候の良い時には散歩に出かける。家族との連携を図り好きな場所等にお連れする。	気候が良く、天気が好ければ毎日散歩に出かける利用者がある。少ない人でも隔日には散歩している。近くのお地藏さん前や小畑川の河川敷が人気である。見晴らしがよく四季の風景が楽しめる。ドライブは長岡天神、八条が池、洛西等へ季節ごとに出かけている。利用者が「行きたい」と希望した時はできる限り対応している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に行くときは立て替え金としてお渡し いたし買い物に行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はご希望があればいつでも受けていま す。季節のお葉書は書いていただき、交換日記をされている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間、居室にはベランダがあり、明るく隣の畑や竹林が見え風が吹いているのが感じられる。各窓にはカーテンがあるため不快な時にはカーテンを閉めることで対処できる。西の窓には梅の木が見え梅の実もなり収穫できる。	利用者の居間兼食堂であるホールは窓から外の風景を見ることができる。食卓、椅子、ソファ調理場がある。壁には手芸、書、塗り絵、季節の飾り等を貼っている。ホームの玄関前や各階のベランダではプランターで季節の花を育てている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアでの自席の配慮をしたり、共用部にはソファがいくつかあるので気の合う方と時間を楽しんで頂いている。一人になりたいときには希望に沿う様に配している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご入居時には使い慣れた家具や、食器などを持って来て頂き、自宅での生活と似た雰囲気を作り居室ではゆっくり出来る空間づくりをしている。	利用者の居室は洋間、ホームがエアコン、ベッド、寝具、カーテン、ハンガー掛け等を準備している。利用者は衣装ケース、テレビ、ラジオ、引き出し、衣類、家族の写真、思い出の人形、毛布、テーブル、椅子等を持ち込み、自分の部屋にしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	できること、わかることを生かせる様、居室前には写真や表札を配置し、トイレ、お風呂と分かるようにし、中には手すりを設置している。できることは自身でして頂き声掛けを行っている。		